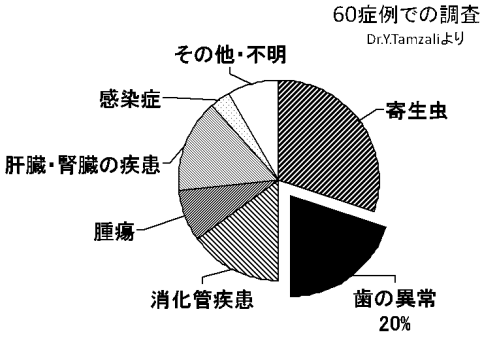
軽種馬生産技術総合研修センター マンスリーレポート16

軽種馬生産技術総合研修センター
Center for Equine Breeding Technology

健康管理と獣医療技術
―馬の歯の管理―

「同じ飼料を与えていても太れない。」「急に歳をとってきたようだ。」そんな馬はいませんか。その馬が，「飼い桶の飼料をちらかす。」「飼料を食べる時の口の動きが変だ。」となれば，歯の異常を気にすることでしょう。軽種馬生産地の馬はほとんどが，繁殖牝馬と発育期の仔馬，若馬で，一日の大半を放牧地で，地面の草を毟り取って食べています。つまり１日の大半は歯を使って過ごしているのです。歯がうまくかみ合わない馬，口腔に痛みがあってものを食べるのがつらい馬，そのような馬は健康とは言えないでしょう。母馬では，発情，胎児への栄養補給，分娩後の泌乳にも影響してくることでしょう。60頭の痩せてきた馬を詳しく調べたところ，12頭(20%)は歯が悪いことによるものだった，という報告もあります。

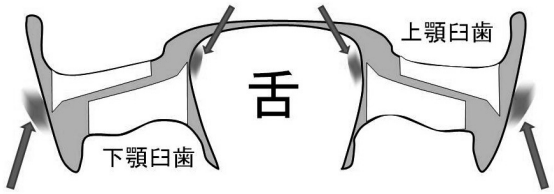
体重減少の原因



最近では生産地でも，騎乗調教までする牧場がふえ，「銜受け」をよくするために，歯を鑢で整える習慣も増えてきました。しかし繁殖馬，騎乗前の若馬の歯を気にする習慣は，あまり普及していません。

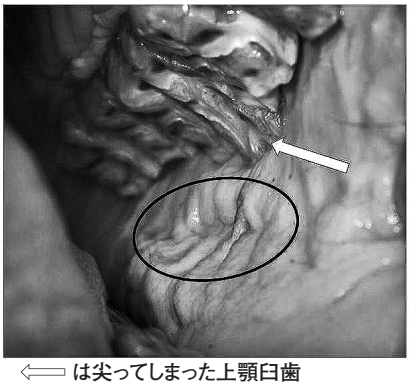
当総合研修センターでは，米国ケンタッキー州の獣医師で，歯の治療，管理について米国各地で講演等を実施しているジャック・イーズリー先生を招いて「歯の管理，治療」に関する研修を実施しました。

歯の異常磨滅による口腔の損傷



○上下臼歯の磨り合わせ面は正常でもやや傾斜している。
○磨滅が適切でないと，上顎臼歯は外側，下顎臼歯は内側だけが鋭くなっていき，舌，口腔壁を傷つけてしまう。

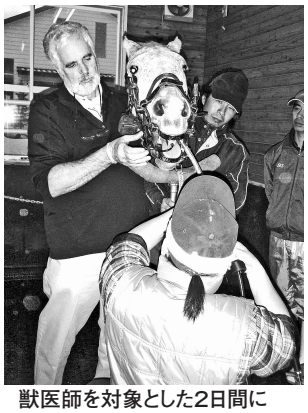
馬の歯は，若馬の時に一度生え換わるのですが，一生伸び続け，老齢になって歯根部がなくなり抜け落ちるまで，成長と磨滅のバランスのもとで，なんとか正常を保っているのです。歯の磨り合わせが悪ければ，上手に噛む事が出来ない，噛む事ができなければさらに，磨り合わせがうまくいかない。そんな悪循環に陥る馬もいるのです。そこで人が適切な磨り減り方に変えてやらなければならない事態がしばしば生じるのです。



⇦は尖ってしまった上顎臼歯
◯印の箇所を傷つけている

まずは，磨り合わせのチェックから。馬が上手に食物を噛んでいるか，噛み散らかしていないか，いつも食物を口に残して臭くなっていないか，頬や顎の下を押してみて痛いところはないか，ときどきゆっくり見てあげましょう。牧場の方によっては，自分で口をあけてみる人もいますし，馬の歯用の鑢を使って上手に磨ってやれる人もいるようです。歯を磨る専門の人にやってもらっている牧場もあるようです。

講師の先生も牧場関係者を対象とした講演会では，繁殖馬の場合でも，年に１，２回のチェック，もしくは必要に応じた処置が必要だとのことでした。獣医師を対象とした研修では，実際の馬での実技研修や，採食困難で，処置が必要な歯の異常の詳細や治療法の講演をしてもらいました。



獣医師を対象とした2日間にわたる研修会

なかなか太れない馬，採食に問題のある馬，歯に問題のあると思われる馬がいましたら，一度，掛かり付けの獣医師に相談をしてみたらいかがでしょうか。当総合研修センターでは，講師のイーズリー先生の作った歯の処置を解説したビデオや，獣医師用に，特殊な歯科治療道具も備えてあります。

牧場関係者を対象としたイーズリー先生の講演